



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

322

日本医学学会会長 門田守人

臓器移植医療充実に奔走

日本医師会と日本医学会って、何が違うの？ ときどき、そんな質問を受けます。

日本医師会は、1916年に北里柴三郎らによって設立、2013年に公益社団法人として認定された団体です。日本医師会→都道府県医師会→郡市区医師会の3階建てになっており、公式HPにはその事業目的は「医道の高揚、医学教育の向上、医学と関連科学との総合進歩、生涯教育などを含む幅広いもの」とうたわれています。

日本医師会が、医師たちの組合的な意味合いが色濃いとすれば、日本医学会は、「あくまで学問中心の活動」であるとうたっています。その歴史は日本医師会より古く1902年、約1700人が参加して開催された学会「日本聯合醫學會」を起源としています。戦後GHQの指示に基づいて日本医師会の下に設置されました。



が、2014年に法人格として、一般社団法人日本医学会連合が設立されました。

現在、同会には142学会(臨床部門107学会、社会部門20学会、基礎部門15学会)が登録されています。言うならば、わが国の医学のトップに君臨する人、それが日本医学会会長です。

その現職であられた第7代・門田守人(もんでんもりと)会長が9月7日に大阪市内で死去されました。享年78。死因については明らかにされていません。突然の訃報を医療界は驚きをもって受け止めたことでしょう。

門田先生は大阪大学出身、同大学の教授も務められました。僕も大学卒業後、大阪大学第二内科に所属していたご縁から、何度かお会いしました。学生時代、無医地区活動をされていたという僕との共通点があり嬉しかったです。

門田先生はかつて、肝臓がんや肝臓移植などの外科手術を多く手掛け

られた名医でした。その経験から、日本臓器移植ネットワークの理事長も務められていました。門田先生を偲ぶ記事の多くが、がん治療への貢献を主に書かれているようなので、僕はあえてこちらに注目したいと思います。

脳死判定された人からの臓器提供を認める「臓器移植法」の施行から四半世紀がたちました。しかしわが国は、世界に比べて提供件数が圧倒的に少なく、63カ国・地域中60位という実績です。そのため闇のネットワークが横行し、ウクライナなどの外国から臓器を購入したり、海外で手術を受ける日本人が後を絶ちません。

門田先生は「つなげる仕組みを整えれば、救える命がある」と、国内での臓器移植医療体制の充実に図るため奔走されていました。

門田先生のモットーは、「たとえ損をしたとしても、正しいと思うことをするべきだ」でした。日本のすべての医師が今こそ、共有するべき言葉だと思います。